

ほうらい かぜ  
蓬萊の風

加羅古呂庵 一泉

## 蓬萊の風

日本最古の物語と言われる『竹取物語』。かぐや姫が、言い寄ってきた5人の  
公達（石作皇子、車持皇子、右大臣阿倍御主人、大納言大伴御行、中納言  
石上麻呂）に難題を持ち掛けるのは、ご存じのとおり。

この5人の中でも、蓬萊の玉の枝を求められた車持皇子は、財力に任せて偽物を職人に作らせ、いかにも蓬萊に苦勞して行ってきたような話をでっち上げ、なかなかもって質が悪い人物（心ばかりある人）として描かれています。

もし、この車持皇子がもっと正直な人で、実際に蓬萊山に玉の枝（根が銀、茎が金、実が真珠の木）を求めに行っていたならば、どうだったろうと想像して作ったのが、この曲です。もともと蓬萊山自体が想像上のものですから、どのように想像力を働かせたとしても、かまわないでしょう。

「荒波を越えて」「玉の枝のそよぎ」「不老の白煙」「人阻む岩壁」「名残りの海原」「憧れの心」の6つの部分から構成しました。

蓬萊山を求めて海に乗り出し、遠くに玉の枝がそよぎ、不老長寿の白煙がたなびいているのが見えるのですが、厳しい岩壁が人を寄せつけません。たちまち蓬萊の山は幻と消え、そこには海原を風が吹き渡るばかり。理想郷は憧れの世界にあるからいいのであって、最後に玉の枝のテーマを振り返って、終曲を迎えます。

※縦譜につきましては、当該楽器のほかには他の楽器のパートを補助的に記載しています。ただし、複数のパートを集約し、オクターブも変えているところがあります。また、十七絃は箏に置き換えて記載しています。正確には、五線譜（スコア）をご参照ください。

The musical score is arranged vertically for six instruments. The top two staves are for 尺八 (Shamisen), labeled 尺八I and 尺八II, both in 1尺8寸管 (1 shaku 8 sun) and playing the notes '口' (kuchi) and '夕' (yū). The third staff is for 三味線 (Shamisen), in 二上がり (ni-ageri) and 途中本調子 (nakanaka hon-chōshi), with notes '二' (ni) and '三' (san). The fourth and fifth staves are for 箏 I and 箏 II (Koto), both in 花雲調子 (hana-gumi chōshi) and 途中調弦替えあり (nakanaka chōshin-gaeshi ari), with notes '一' (ichi), '三' (san), '五' (go), '七' (shichi), '九' (kyū), '斗' (tō), '為' (nae), and '巾' (kin). The bottom staff is for 十七絃 (Shichuwan), in 途中調弦替えあり (nakanaka chōshin-gaeshi ari), with notes '二' (ni), '三' (san), '五' (go), '七' (shichi), '九' (kyū), '1', '3', '5', and '7'.

運指、奏法については、適宜工夫していただいでけっこうです。